

安定した農業経営と生活のためには、万一の事故への備えが欠かせない。J Aグループ山形地域・担い手サポ・センターは、J Aグループ山形第3次長期農業振興戦略の一環として、昨年からの希望する全ての担い手が労災保険に加入できるように、加入環境の整備を進めている。社会保険労務士事務所と提携し、年内には県全域での整備を目指す。

皮切りは庄内。昨年5月、J Aを通じた加入環境が整っていたJ Aあまるめを除く4 J Aが酒田市の三谷社会保険労務士事務所と

### 農業者の労災保険加入

業務委託契約を結び、加入環境を整備した。現在200人余りが加入している。内陸でも今年5月、山形もがみ、てんどう、さがえ西村山、やまがたの4 J Aが山形市の浦山社会保険労務士事務所と契約を結び、加入スキームを構築した。

浦山事務所は、指定農業機械従事者と特定農作業従事者向けの労災保険特別加入団体を新設。4 J Aはこれらの団体と既存の労働保険事務組合に加入業務を委託する。窓口や加入書類事務、保険料徴収、給付事務などは特別加入団体などが行い、J Aは加入説明会を」と述べた。

29日には、先行J A主催の寒河江市のJ Aさがえ西村山本所を会場に農家対象の加入説明会が開かれる。



浦山社会保険労務士④の説明を聞くJ Aの担い手者

# 県全域に環境整備へ